



週間情報



No.2733

発行日 平成27年8月25日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 電話 03(3234)1321

消防本部の動き

行事

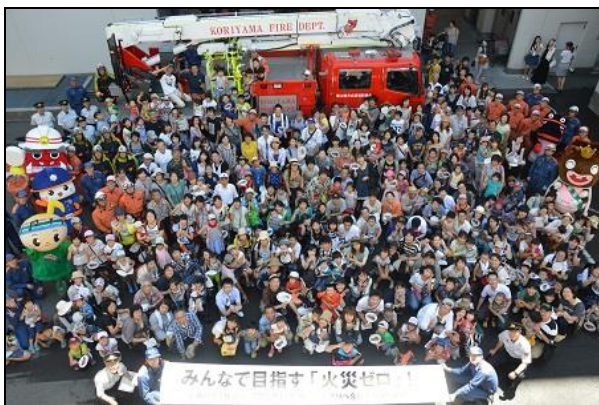
◆ 「消防ふれあい広場 2015～地域へ発信！勇気と元気を～」を開催

郡山地方広域消防組合消防本部（福島）

郡山地方広域消防組合消防本部では、平成27年7月26日（日）、「消防ふれあい広場 2015～地域へ発信！勇気と元気を～」を開催しました。

日頃から、消防に対する住民の皆さんのご理解とご協力に感謝し、レスキュー体験や防火衣装着・放水体験など、防火・防災について楽しく学べる体験コーナーのほか、消防部隊訓練や救助訓練の展示などを行いました。

天候に恵まれ、大変暑いなかでの開催となりましたが、盛況のうちに終わることができました。



【消防ふれあい広場の様子】

◆ 第30回夏休み消防一日体験学習を開催

出雲市消防本部（島根）

出雲市消防本部では、平成27年7月31日（金）、夏休み消防一日体験学習を開催しました。

各地域の小学4年生から6年生の80名と消防職員が一体となり、相互のふれあいを通じて、より深い消防への理解と防火意識を育み高めていくことを目的として実施しました。

この体験学習では、水消火器を使った的当てゲーム・バケツリレー・煙体験・タンク車を使った放水体験・ロープ結索・ロープ渡過体験及び起震車を使った地震体験を行いました。また、非常食体験として保存食を使った昼食をとり、災害時の対応方法等について学びました。



【夏休み消防一日体験学習の様子】

訓練・演習

◆ ダーティブリーチング訓練を実施

猪名川町消防本部では、平成27年7月13日（月）、管内の取り壊し予定の建物を利用して地震などの災害による建物倒壊を想定したダーティブリーチング訓練を実施しました。

当日は、救助隊員を中心に訓練を実施し、コンクリートの壁面に開口部を設定しました。今回の訓練は、兵庫県下で研究し作成された活動マニュアルに準じて実施したもので、知識と技術の習得を図り共通認識のもと活動することができました。

猪名川町消防本部（兵庫）



【ダーティブリーチング訓練の様子】

◆ 3機関合同の海上水難救助訓練を実施

松山市消防局（愛媛）

松山市消防局では、平成27年7月14日（火）、当市下難波の立岩海水浴場において、愛媛県警機動隊「水難救助班」、愛媛県消防防災航空隊、中央消防署、西消防署の総勢42名での合同海上水難救助訓練を実施しました。

訓練は、約100メートル沖で流されている要救助者2名を防災ヘリが上空から捜索し、指揮本部に情報提供、その情報を基に消防の高度救助隊が水中探査装置で水没位置を特定し、消防救急艇と県警水難救助班が協力して海上での救助活動を実施するなど、各機関の機動力を生かした連携訓練を行いました。

自然環境に大きく左右される海上水難救助現場では、各救助機関が協力し組織的に救助活動に取り組まなければなりません。今後も各救助機関との連携を深め、救助活動能力の向上に努めていきます。



【海上水難救助訓練の様子】

研修等

◆ 小学生を対象とした着衣泳講習会を実施

鈴鹿市消防本部（三重）

鈴鹿市消防本部では、平成27年7月8日（水）、14日（火）の2日間、当市内2校の小学校において、潜水隊員による着衣泳講習会を実施しました。

子ども達が水に接する機会が多くなる季節となり、全国各地で水難事故により幼い命が奪われています。少しでも多くの命が救われるようにとの思いから、子ども達が自らの命を守ることを目的として、潜水隊員が水難事故を未然に防ぐ方策を検討し、溺れさせないだけでなく、溺れてしまった時に役立つ訓練を実施しました。

生徒はプールで背浮きを実際に体験し、「無理して動かず、浮いて待つ」ことの大切さを身をもって感じる事ができたとのことでした。

今後もこの様な訓練を計画的に実施し、水難事故防止を図っていきます。



【小学生を対象とした着衣泳講習会の様子】

そ の 他

◆ 人命救助功績者に感謝状を贈呈

西予市消防本部（愛媛）

西予市消防本部では、平成27年7月22日（水）、人命救助に功績のあった小学校PTAに対して、消防長感謝状を贈呈しました。

表彰の対象となった事案は、6月28日、小学校PTAの行事として、救命講習会を実施した後、親子スポーツ大会競技中に、急に倒れて心肺停止となった保護者の男性に対して、PTA会員らがAEDを用いて迅速に救命処置を行い、救急隊に引き継ぎ救命に成功したものです。男性は後遺症もなく順調に回復しているとのことです。

表彰を受けたPTA会長は「直前の講習会が役に立った。これからもなお一層、人の命を守ることに真剣に取り組む。」と述べました。



【人命救助功績者に対する感謝状贈呈の様子】

◆ 消防協力者に対し感謝状を贈呈

豊橋市消防本部（愛知）

豊橋市消防本部では、平成27年7月28日（火）、当市役所において、急病事故における消防協力者3人（タカラ梱包輸送株式会社豊橋工場（下地町）の従業員2人、同工場に荷積みのため来ていたトラック運転手1人）に感謝状を贈りました。

この事案は、7月22日に同工場駐車場で、会話中に意識を失い心肺停止状態となった豊川市のトラック運転手への救命活動を行ったもので、心肺停止状態となった急病事故において迅速な心臓マッサージ、119番通報及びAEDを使用した心肺蘇生など、相互に連携協力し人命救助活動にあたりました。その後、到着した救急隊に引き継がれ、病院収容時には会話可能となり、7月25日には退院をされました。

タカラ梱包輸送株式会社では、平成19年に社員一同で救命講習を受講しており、平成27年3月には社内にAEDを設置していました。この勇気ある行動で尊い人命が救われたことに対し、山田淳消防長から3人に感謝状を贈り、感謝の意を表しました。



【消防協力者に対し感謝状を贈呈】

◆ 新庁舎での堺消防署三宝出張所の運用を開始

堺市消防局（大阪）

堺市消防局では、平成27年8月1日（土）から堺消防署管内の三宝出張所と高須出張所を統合し、新庁舎での三宝出張所の運用を開始しました。

この新庁舎には、新たに救急車を配置するなど拠点機能の充実を図り、市北西部の消防体制を強化しました。さらには、津波災害時に避難するため約100人を収容できる屋上避難スペースや災害時用マンホールトイレも設置しています。

また、運用開始に先立ち、7月25日（土）に関係者をお招きしての完成披露式と、市民への庁舎見学会・消防フェアを開催しました。



【堺消防署三宝出張所の新庁舎】



【庁舎見学会・消防フェアの様子】

消防学校からの便り

◆ 震災対策総合訓練を実施

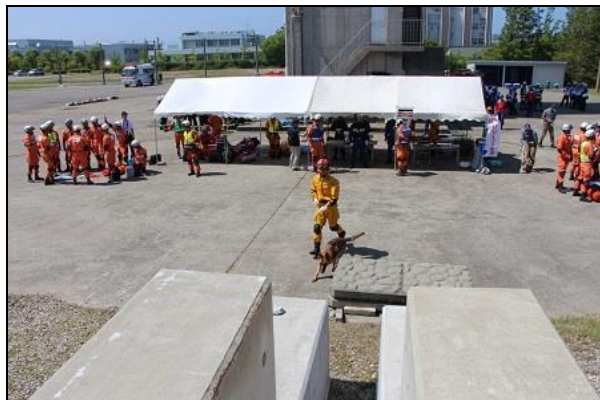
新潟県消防学校（新潟）

新潟県消防学校では、平成27年7月6日（月）から16日（木）までの9日間、消防救助操法等の習熟に加え、大規模災害活動に対しての知識技術の習得及び適切な救助活動による人命救助を行うことを目的に、第1回高度救助コースを実施しました。

また、7月14日（火）には、今年度から初めての取り組みとなる震災対策として、入校学生22名、災害派遣医療チーム、新潟DMAT、災害救助犬及び十日町職員による総合連携訓練を実施しました。

この度の内容は、CSR/M (Confined space Rescue/Medicine) の手技に基づき、①保温保護・②狭隘空間活動・③傷者観察・④指揮進入活動の展示説明を実施、その後、ドックサーチ等により要救助者の位置を特定し救出を開始するといった実践的な想定訓練を行いました。また、想定終了後には、検証や有意義な意見交換を行いました。

最後に、DMATや救助犬との連携活動に共通認識を持ち、強化することで効率的かつ効果的な救助活動を行うことができ、救命率の向上につながることを確認しました。



【震災対策総合訓練の様子】

消防庁通知等

◆ 平成 26 年中の都市ガス、液化石油ガス及び毒劇物等による事故状況について (7月31日、消防危第178号)

危険物保安室長より、各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに次のとおり通知されましたのでお知らせします。

都市ガス、液化石油ガス及び毒劇物等による事故（以下「ガス事故等」という。）防止対策につきましては、平素より御尽力を賜り感謝申し上げます。

この度、例年調査をお願いしている標記の件について、平成26年中の調査結果を別添（省略）のとりまとめました。

貴職におかれましては、本調査結果によるガス事故等の状況を十分に考慮し、今後ともガス事故等の防止に御配慮いただきますようお願いいたします。

なお、貴都道府県内の市町村に対しても、この旨周知くださいますようお願いいたします。

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/concern/law/tuchi2707/pdf/270731_ki178.pdf) に掲載されています。

【問い合わせ先】危険物保安室
担当：鳥枝、清水、水野

報道発表

◆ 平成 27 年 7 月の熱中症による救急搬送の状況（8月18日、消防庁）

平成27年7月の熱中症による全国の救急搬送の状況（確定値）を取りまとめましたので、その概要を公表します。（以下省略）

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h27/08/270818_houdou_1.pdf) に掲載されています。

【問い合わせ先】救急企画室
担当：寺谷、平井、足立

◆ 住宅用火災警報器の設置率等の調査結果（平成 27 年 6 月 1 日時点）（8月21日、消防庁）

消防庁では、消防法により設置が義務付けられている住宅用火災警報器の設置率等について、平成 27 年 6 月 1 日時点での調査結果をまとめました。

（都道府県別等の結果は、別添（省略）参照）

消防庁では、今後も未設置世帯に対する設置の働きかけや住宅用火災警報器の維持管理に関する広報を行ってまいります。（以下省略）

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h27/08/270821_houdou_1.pdf) に掲載されています。

【問い合わせ先】予防課
担当：小富士・齋藤

◆ 「住宅防火・防災キャンペーン」の実施（８月２１日、消防庁）

日本における住宅火災による死者数は1,000人前後の高い水準で推移しており、このうち65歳以上の高齢者が7割を占めています。

高齢化の進展とともに、住宅火災による死者のうち高齢者の占める割合が増加していることから、消防庁では、「敬老の日に「火の用心」の贈り物」をキャッチフレーズに、高齢者に住宅用防災機器等をプレゼントすること等と呼びかける「住宅防火・防災キャンペーン」を実施します。（以下省略）

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h27/08/270821_houdou_2.pdf) に掲載されています。

【問い合わせ先】予防課予防係
担当：小富士・齋藤

◆ 平成２７年１月～３月の製品火災に関する調査結果（８月２１日、消防庁）

消防庁では、消費者の安心・安全を確保するため、火災を起こす危険な製品の流通防止を目的として、平成２７年１月～３月に発生した自動車等、電気用品及び燃焼機器に係る火災のうち、６月３０日までに消防機関から調査結果の報告があったものについて、発生件数や「製品の不具合により発生したと判断された火災」の製品情報等を取りまとめました。（以下省略）

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h27/08/270821_houdou_3.pdf) に掲載されています。

【問い合わせ先】予防課
担当：小富士・齋藤・竹葉

情報提供

◆ 危機管理・防災実務に関する政策研究シンポジウムの開催について

政策研究大学院大学

開催趣旨：

わが国においては、災害・危機に対応する多くの分野で実務の課題が山積しており、これらの解決に資する政策研究の重要性が増大している。このため、危機管理・防災政策研究の第一線で活躍している専門家、各地域等の危機管理・防災業務に携わる実務家等の協力を得て、危機管理・防災実務に関する政策研究シンポジウムを開催するものである。本シンポジウムの開催を通じて、参加者の方々と情報共有するとともに、危機管理・防災業務関係者等へ情報発信することにより、防災・危機管理に関する政策研究の進展に寄与しようとするものである。

日時： 平成 27 年 9 月 9 日（水） 13：15～17：00

場所： 政策研究大学院大学 〒106-8677 東京都港区六本木 7-22-1 1 階 想海樓ホール

定員： 約 300 名

言語： 日本語

参加費：無料（事前登録制）

《参加登録方法》

参加ご希望の方は、ご氏名、ご所属、ご連絡先（Eメールアドレス）を明記の上、9月4日(金)までにシンポジウム担当の岡田あて Email <bousaisympo@grips.ac.jp> にてご登録下さいますようお願い申し上げます。

《シンポジウム次第》

○開会 13:15

○基調講演 13:20～14:30

「危機管理・防災政策実務における課題」

河田 恵昭 氏（関西大学理事、社会安全学部・社会安全研究センター長、教授、工学博士、
阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター長、中央防災会議防災対策実行会議委員）

○事例発表 14:30～15:20

「各地域等の抱える課題に関する事例発表」

横山太郎 氏（福島県危機管理部原子力対策課）

近藤謙太 氏（東京消防庁防災部震災対策課）

足立守篤 氏（静岡県交通基盤部都市局地域交通課）

木村裕矢 氏（新潟市危機管理防災局防災課）

岩本理恵 氏（和歌山県福祉保健部福祉保健政策局）

藤森裕章 氏（西日本旅客鉄道(株)岡山支社企画課）

○休憩 15:20～15:30

○パネルディスカッション 15:30～17:00

「直面する各種課題への取組みと政策のあり方について」

パネリスト：

河田恵昭 氏（基調講演に同じ）、

田村圭子 氏（新潟大学危機管理室教授 兼 同災害・復興科学研究所教授）、

秋富慎司 氏（防衛医科大学校救急部 兼 防衛医学研究センター外傷研究部門講師、前岩手医
科大学高度救命救急センター助教）

事例発表者：各氏

コーディネーター：

武田文男（政策研究大学院大学教授、防災・復興・危機管理プログラムディレクター）

○閉会 17:00

※なお、シンポジウム終了後、隣接の本学食堂（1F）において交流会（参加費：無料）を開きます。ご都合の良い方は、どうぞご自由にご参加ください（講師の方々にも参加いただきます。）。

週間情報では、各本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せ下さい。

週間情報への投稿は企画課へ！

TEL 03-3234-1321 FAX 03-3234-1847 E-mail : weekly@fcj.gr.jp